

さようなら シキ800



シキ800形800C 昭和51年(1976) 物流博物館蔵

2020年 **1月26日(日)～3月29日(日)**

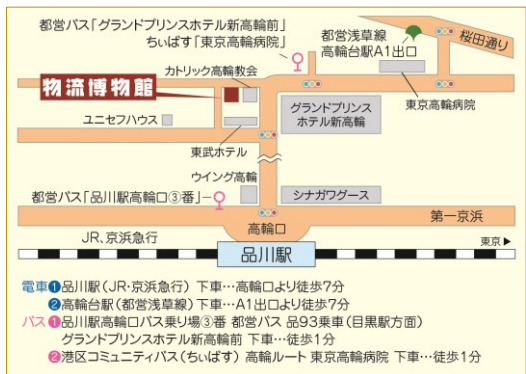
インフラの整備を支える物流として、重量品の輸送があります。戦後、各地で電源開発が進み、それに伴い変圧器等の重量品輸送が盛んになりました。現在ではトレーラー輸送も多く用いられていますが、当時は道路事情の悪さもあり、鉄道輸送は欠かすことのできないものでした。

長らく重量品輸送に携わってきた日本通運(株)では、大型変圧器等を鉄道輸送するためにシキ車(大物車)を所有しています。このうち、昭和48年(1973)から46年間にわたり運用されたシキ800が、令和元年(2019)11月をもって引退しました。

これを記念し、昨年11月、京都鉄道博物館にて日本貨物鉄道(株)所有のE F 200形直流電気機関車と共に車両特別展示が行われました。

本展では、京都で展示されたパネルやシキ800の最終輸送関係映像のほか、実際に使用された車票等からシキ800の姿をふりかえります。

あわせて、他のシキ車の写真や模型から、普段目にする機会のほとんどないシキ車の一端をご紹介します。



関連映像上映会(マンスリー上映会)

収蔵資料からシキ車の登場する映画作品を上映します

定員 30名(事前予約不要・当日先着順) **会場** 物流博物館 2階映像展示室
いずれも入館料のみでご参加いただけます
*すべてデジタルリマスター版による上映です

マンスリー上映会「シキ車」特集

日時 1月26日(日)10:30～12:00/13:30～15:00/15:30～17:00
3月 7日(土)10:30～12:00

①「380トンジンボール」

1961年頃/カラー/21分/企画:日本通運(株)/製作:新潟映画社

東北電力・新新潟変電所へ納入された日立製作所国分工場製250トン変圧器輸送の記録。変圧器は日立港から海上輸送され新潟港に設置された380トンジンボールによって水切りが行われ、280トン積みの大物貨車シキ700に積載、磐越西線・馬下駅まで輸送。最後は変電所まで約2kmの距離をコロ曳きされた。各種の重量品輸送の作業を見ることができる作品。

②「68の車輪」

1965年/カラー/33分/企画:日本通運(株)/製作:東京シネマ

当時最大級の重量280トンの変圧器を輸送する行程を記録した映画。千葉県・柏駅まで超大型変圧器輸送専用貨車シキ700で鉄道輸送し、柏駅で300トン・シュナーベル式トレーラーに積み替え、野田市郊外の東京電力東京変電所まで、17キロ半の行程を5日間かけて輸送するようすを描く。

③「超重量に挑む500トントレーラーとシキ611」

1971年/カラー/21分/製作:電通・電通映画社/企画:日本通運(株)

重電機器類の大型化にともない、1971年に新たに開発された500トントレーラーと、重量品専用貨車シキ611による大型変圧器輸送のようすを描く。

マンスリー上映会「巨大変圧器の輸送」

日時 2月23日(日)10:30～11:40/13:30～14:40/15:30～16:40
3月 7日(土)13:30～14:40

①「300トントレーラー」

1960年/カラー/26分/企画:日本通運(株)/製作:運輸新聞映画部

超重量品輸送の歴史上画期的といえる日本通運の300トントレーラー運行の記録。重量207トンの変圧器を、日立国分工場から横浜線橋本駅までシキ300Bで鉄道輸送し、橋本駅から電源開発・西東京変電所まで約17キロをトレーラー輸送した様子が克明に描かれている。

②「ひとすじの道-160トン変圧器を運ぶ-」

1979年/カラー/32分/企画:日本通運(株)/製作:岩波映画製作所

日立製作所国分工場で作られた100万ボルト変圧器を、茨城県日立港から愛知県豊田市近郊の中部電力東部変電所まで運ぶ重量品輸送の記録。日通所有の重量品専用貨車シキ613B1、シュナーベル型240トントレーラーと、作業に取り組む重量品輸送技術者たちの活躍が描かれている。

【閉館時間】午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】毎週月曜日(2月24日は開館)、1月28日、2月12日・25日、3月24日

【入館料】高校生以上200円/65歳以上100円/中学生以下無料 *団体20名以上半額 *常設展示もご覧になれます

〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15 TEL 03(3280)1616 <http://www.lmuse.or.jp>

物流博物館
MUSEUM OF LOGISTICS



さようなら シキ800



シキ800形800C 昭和51年(1976)頃 物流博物館蔵

2020年 **6月2日(火)～7月26日(日)**

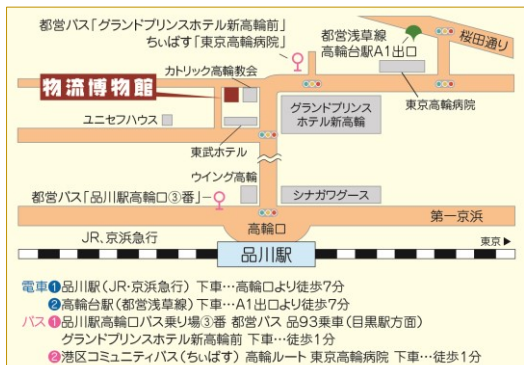
インフラの整備を支える物流として、重量品の輸送があります。戦後、各地で電源開発が進み、それに伴い変圧器等の重量品輸送が盛んになりました。現在ではトレーラー輸送も多く用いられていますが、当時は道路事情の悪さもあり、鉄道輸送は欠かすことのできないものでした。

長らく重量品輸送に携わってきた日本通運(株)では、大型変圧器等を鉄道輸送するためにシキ車(大物車)を所有しています。このうち、昭和48年(1973)から46年間にわたり運用されたシキ800が、令和元年(2019)11月をもって引退しました。

これを記念し、昨年11月、京都鉄道博物館にて日本貨物鉄道(株)所有のE F 200形直流電気機関車と共に車両特別展示が行われました。

本展では、京都で展示されたパネルやシキ800の最終輸送関係映像のほか、実際に使用された車票等からシキ800の姿をふりかえります。

あわせて、他のシキ車の写真や模型から、普段目にする機会のほとんどないシキ車の一端をご紹介します。



関連映像上映会(見逃し上映会)

収蔵資料からシキ車の登場する映画作品を紹介します

本年1・2月に開催した上映会でご好評いただいた作品の再上映です

日時 **7月23日(木・祝)**

プログラムA=10:30～11:30 / プログラムB=14:00～15:10

*状況に応じ変更・中止となる場合がございます。予めご了承ください。

定員 各回15名=要電話予約 **7月5日(日)10時受付開始** TEL 03(3280)1616

会場 物流博物館 2階映像展示室

*いずれも入館料のみでご参加いただけます

*すべてデジタルリマスター版による上映です

プログラムA「シキ車」特集 (2020年1月26日上映作品に同じ)

①「380トンジンポール」

1961年頃/カラー/21分/企画:日本通運(株)/製作:新潟映画社

東北電力・新潟変電所へ納入された日立製作所国分工場製280トン変圧器輸送の記録。変圧器は日立港から海上輸送され新潟港に設置された380トンジンポールによって水切りが行われ、280トン積みの大物貨車シキ700に積載、磐越西線・馬下駅まで輸送。最後は変電所まで約2kmの距離をコロ曳きされた。各種の重量品輸送の作業を見ることができる作品。

②「超重量に挑む-500トントレーラとシキ611」

1971年/カラー/21分/製作:電通・電通映画社/企画:日本通運(株)

重電機器類の大型化にともない、1971年に新たに開発された500トントレーラと、重量品専用貨車シキ611による大型変圧器輸送の様子を描く。

プログラムB「巨大変圧器の輸送」(2020年2月23日上映作品に同じ)

①「300トントレーラ」

1960年/カラー/26分/企画:日本通運(株)/製作:運輸新聞映画部

超重量品輸送の歴史上画期的といえる日本通運の300トントレーラ運行の記録。重量207トンの変圧器を、日立国分工場から横浜線橋本駅までシキ300Bで鉄道輸送し、橋本駅から電源開発・西東京変電所まで約17kmをトレーラ輸送した様子が克明に描かれている。

②「ひとすじの道-160トン変圧器を運ぶ」

1979年/カラー/32分/企画:日本通運(株)/製作:岩波映画製作所

日立製作所国分工場で作られた100万ボルト変圧器を、茨城県日立港から愛知県豊田市近郊の中部電力東部変電所まで運ぶ重量品輸送の記録。日通所有の重量品専用貨車シキ613B1、シュナーベル型240トントレーラと、作業に取り組む重量品輸送技術者たちの活躍が描かれている。

本展の会期は2020年1月26日(日)～3月29日(日)を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館(3月30日(土)～6月1日(月))に伴い、延長しました。

【開館時間】6月=午前10時～午後3時30分 7月=午前10時～午後5時(入館は閉館の30分前まで)

【会期中休館日】6月=毎週月曜日・土曜日・日曜日 7月=毎週月曜日 *状況に応じ変更する場合がございます。お出かけ前にご確認ください。

【入館料】高校生以上200円/65歳以上100円/中学生以下無料 *常設展示もご覧になれます

〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15 TEL 03(3280)1616 <http://www.lmuse.or.jp>

